



## 後輩へのメッセージ

大学生活は、学業以外にも、クラブ・サークル活動、海外留学、資格取得、ボランティア活動など、自分の好きなことに取り組める期間です。

今回紹介する3人の4回生は、それぞれの大学生活の中で「これだ!」というものを見つけ出し、全力で取り組んできました。

彼らの後輩へのメッセージを読んでいただき、これから皆さんが大学生活を送るうえでの参考になれば嬉しいです。

# 仲間との連携や感謝の気持ちを大切に



私は高校までテニスに打ち込んできましたが、大学では体育会系以外の活動をしてみたかったことと、子どもが好きだったので、ボランティアスタッフに入りました。3回生の時には、ボランティアスタッフの副代表を務めました。

子どもと関わりのあるボランティアを中心に多くの活動に参加しましたが、その中で印象に残っているのは、2016年の「熊本地震復興支援ボランティア」です。熊本の子供達とのキャンプでは、心に傷を負っている子どもたちを元気づけるように努めました。1年後に訪ねてみたところ、子ども達が私の名前を覚えてくれたうえに手紙までもらって、本当に感激しました。卒業旅行で九州を一周する予定ですので、また子供たちを訪ねてみるつもりです。

ボランティア活動は、本学の学生とだけでなく、他大学の学生とも一緒に行いました。他大学の学生と連携して何か一緒にできないかということを感じ、10校ぐらいの大学の団体に一緒に活動することを呼び掛けました。その結果、大阪市立大学の学生団体と一緒に清掃活動を行うことになり、土曜日に天王寺周辺で活動を行いました。清掃活動が終わった後に、「てんしば」の芝生の上に座って、ご飯を食べながら他大学の学生と交流したことが、今では良い思い出です。

ボランティア活動以外にもボランティアスタッフ同士の交流を深めるため、バドミントン等のスポーツをしたり、忘年会等も行いました。また、ボランティアスタッフに聴覚に障がいのある友だちがいたことがきっかけで、ノートテイクの活動にも取り組みました。

ボランティア活動では、初対面の人に一对一で話すのが多いことから、その経験を基に就職活動では営業職を中心に応募し、大手の製鉄会社から内定をいただきました。

ボランティア活動を中心に過ごしてきた4年間、ボランティアの依頼先から安心して依頼してもらえるよう、ボランティアスタッフ間の連携にも気を配ってきました。また、ボランティア活動に参加して「ありがとう」と言われたり、相手に喜んでもらえることで、人の役に立とうというモチベーションにも繋がってきました。仲間との連携や感謝の気持ちを大切に、大学生活の中で自分自身が打ち込めることを見つけてください。



和泉中央駅周辺の植栽作業の後でボランティアスタッフの仲間と一緒に

## 家根谷 雄生さん

(経済学科4回生)

# 夢の実現に向かって

私は福島県出身で、地元の友だちは首都圏の大学に進学するケースが多いのですが、母親が大阪出身だということと、留学制度が充実していることに魅力を感じて桃山学院大学に入学しました。

中学、高校でもボランティア活動に参加していましたが、入学した最初の頃に「なんでも相談コーナー」で、ボランティアスタッフの先輩の方が優しく対応してくれたことがきっかけで、ボランティアスタッフに入りました。参加したボランティア活動で印象に残っているのは、毎年5月に開催される「みどりのつどい」と大阪マラソンです。この2つのイベントは、ボランティアスタッフのほぼ全員が参加しており、みんなでイベントを成功させようと頑張りました。大阪マラソンのボランティアは、高校時代にマラソンのボランティアに参加したこともあり、1回生と3回生の時の2回参加しました。それ以外で印象に残っているのは、毎年6回アイ・あいロビーで開催される地域の子どもと関わるボランティアの「ももやまキッズランド」です。他に子どもと関わるボランティアでは、東日本震災後に福島県の子ども達を大阪に招待して交流するというボランティアと同じ福島県出身という立場で、子ども達の何かの力になればという想いで参加しました。ボランティアスタッフとしての活動以外にも、聴覚に障がいのある仲間のためにノートテイクとしても活動しました。

入学前から関心があった海外留学には、2回生の秋学期にオーストラリアのメルボルンに留学しました。留学後は、さらに見聞を広めるため、中国や韓国等、アジアの国々も旅行しました。また、本学に留学している留学生のために「バディ」として留学生をサポートしました。留学生と一緒にUSJや道頓堀に遊びに行ったり、お寿司を食べたりもしました。

福島から大阪に進学して、そこからさらに海外留学したことで、自分の世界が広がりました。このことがきっかけで、旅行のプランを立てる職に就きたいとの想いを抱くようになり、国内旅行取扱主任の資格を取得しました。今は、自分の将来選択の幅を広げるために、旅行業務に関する資格だけでなく新たな資格を取得して、夢の実現に向けて頑張っています。皆さんも広い視野を持って、自分が目指す目標を探してください。そしてその目標に向かって全力で取り組んでください。



旅行先にて

## 比佐 葉菜さん

(英語・国際文化学科4回生)

# 障がいを乗り越えて



私は、障がいのある学生への支援が充実していることから、桃山学院大学に入学したのですが、最初大学生活に馴染めるか不安でした。なぜなら、交通事故の影響で、言語障がいや記憶障がいを抱えていたからです。しかし入学後、視覚や聴覚等に障がいがあったり、車椅子を利用して多くの学生と友だちになったことで、不安が払拭されました。

また、私が入学した社会福祉学科には、入学してから最初にオリエンテーションがあり、そこで先輩がフレンドリーに優しく接してくれたり、障がいに理解のある同級生が多かったことで、大学生活にもだんだん馴染めるようになりました。

私は、元々スポーツが好きで、小学生の時は水泳、中学からは陸上競技を始め、高校では100から200mの短距離走と走り幅跳びを行っていました。大学入学後は、学業に専念するため陸上競技を辞めようと思ったのですが、地元にある堺市立健康福祉プラザというスポーツセンターで陸上競技の練習会に参加したことがきっかけで、陸上競技を続け、第18回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会2018）で堺市代表選手として出場し、50m走および立ち幅跳びの2種目で優勝しました。今年も、全国障害者スポーツ大会の堺市代表選手に選ばれましたが、台風で中止となったため、来年の大会に向けて練習に取り組んでいます。

陸上競技以外にも前述のスポーツセンターで誘われたことがきっかけで、障がい者スポーツに興味を持ち、車椅子のソフトボールやアメフトにも参加しています。このスポーツセンターでは、週3、4日、プールの監視や受付等のアルバイトもしています。ここは、障がいのある方も利用できる施設で、最初は覚えることが多くとても大変だったのですが、スタッフの方も私の障がいのことを理解してくれているおかげで、アルバイトが続けられています。スポーツ以外では、写真撮影も好きで、写真部に入って活動もしています。全国を旅行しながら訪れた場所の風景等を撮影して、年に数回展示会を開催しています。

私は、交通事故に遭ってから障がいを負うことになりましたが、様々なことに挑戦して、それを乗り越えてきました。皆さんも困難に立ち向かうことを恐れずに克服してください。辛いことがあっても、それを乗り越えれば、必ずいいことがありますよ。



写真部の仲間と一緒に

## 増戸 拓未さん

(社会福祉学科4回生)